

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
分担研究報告書

ロコモ度テストの日本人の性・年代別基準値の作成

研究分担者 大江 隆史 NTT 東日本関東病院 整形外科主任医長

研究要旨

自立度を阻害し、健康寿命を短縮させる要因である運動器障害の対策としてロコモティブシンドロームが提唱され、その評価法としてロコモ度テストがある。ロコモ度テストは要介護のリスクを予見するものとして期待されている。さらに移動機能の低下は若年～壮年層から始まり高齢層で急激に低下することが知られている。そこで、日本人全ての年代に対応し、かつ要介護のリスクの予見につながるような移動機能の低下をロコモ度テストを用いて、年代別に客観的に測定・評価することが必要と考えられるが、全国レベルでの詳しい調査は行われていない。この研究は日本全国レベルでのロコモ度テストの性・年代別基準値を作成することを目標とする。

A．研究目的

ロコモ度テストの性・年代別基準値を全国レベルで作成すること。

その集計と分析はその途上にあるが、有効なデータ数は 4127 件となっている。北より南の地域での収集率が高い傾向にある。

B．研究方法

地域在住の一般男女 20～29歳、30～39歳、40～44歳、45～49歳、50～54歳、55～59歳、60～64歳、65～69歳、70～74歳、75～79歳、80～89歳の各年齢男女それぞれ464人（計10208人）の登録を目標とする。全国7地域（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州）の各地域に人口比を基にそれぞれ該当人数を設定した上で各地域の該当人数に応じた研究分担者を配置し、その研究分担者にロコモ度テストを依頼し登録を行う。研究期間は1年を目途とする。

（倫理面への配慮）

本研究では被験者のプライバシーを保護し、提供されたデータは住所、氏名など特定の個人を識別できないものとする。また、参加者全員に研究参加の同意書を得る。本研究ではデータを特定の個人を識別することができないものとし、対応表を作成しない。

C．結果

倫理審査の承認が平成 29 年 6 月末となったため、調査は 8 月から開始となった。平成 29 年度末（2018 年 3 月末）に時点で約 5215 件のデータを収集した。

D．考察

報告者自らが行った調査では、以下の点が明らかになった。1 つ目は、秋から冬にかけては東北、北海道などの寒冷地域では多くの人を一同に集めることに非常な困難を伴うであろうということである。2 つ目は、測定の際の安全を期するために、測定法に定めた介助者を必ず配置することを順守しなければならないという点である。3 つめは測定者の教育に当たってはマニュアルに精通するのみならず、研究分担者による実地での指導が必須であるということである。

E．結語

調査の進捗は予想通りであるが、調査票の約 20% が無効となる可能性があり、2018 年 6 月末を目途に進捗を点検して、特に北の地方での進捗に注意を払う予定である。8 月末を目途に予定の登録を達成したい。

F. 研究発表

1. 論文発表
該当無し

2. 学会発表

第 91 回日本整形外科学会学術総会

シンポジウム「ロコモ普及活動の現状と今後の

課題」の中で「設立 8 年目を迎えたロコモ チ

ャレンジ！推進協議会の活動」(大江 隆史)

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし